



「シミ」の種類と治療について

日本では古来より「色白は七難隠す」との諺があるほど色の白さや肌の美しさを尊ぶ風潮があります。日本人の美白願望はこのように昔からのもので、現代人も『シミ』に対しては非常に関心が高く、特に女性の中にはシミ取りに躍起になっておられる方もいらっしゃいます。一般に『シミ』といわれるものは、実際に様々な種類があり、今回はその種類や治療法についてご紹介いたします。

◇シミの種類

1. 肝斑

主に30~40代の女性の顔、特におでこやほほ骨、口の周囲に左右対称にでている薄い褐色のシミです。妊娠や閉経、月経不順などにより生じたり、色が濃くなったりするため、ホルモンバランスの変化などが関係しています。

2. 雀卵斑（ソバカス）

思春期に目立つようになります。小さなシミが顔を中心に、日に当たる部位に多くでます。日焼けで悪化します。

3. 老人性色素斑（日光性黒子）

シミといわれるものの中で最もよく見かけるものです。日焼けする部分に生じ、境界がくっきりしており、うすい褐色から黒っぽいものなど様々な色合いです。色むらのないシミです。ごく小さいものからかなり大きいサイズまで色々です。

4. 両側性真皮メラノサイトーシス

よく出るのはほほですが、おでこや小鼻、まぶた、鼻筋など、日焼けをする部位にでてきます。紫外線や女性ホルモンなどの刺激によって、メラニンという色のもとを作り、出現すると考えられています。

◇シミの治療

上記のようなシミに対して、昨今はレーザー治療や美白剤、ケミカルピーリングなど、様々な治療法が行われています。

当院では、美白剤のハイドロキノンを採用しています。ハイドロキノンとは、自然界ではイチゴやブルーベリー、麦芽、コーヒーなどに含まれている物質です。アメリカでは1960年代にシミなどに対する有効性が報告され、その後美白治療に広く用いられています。日本では2001年から化粧品への配合が可能となり、使用されるようになりました。

2010年4月現在、事情によりハイドロキノンの処方を中止しております。
2010年9月より再開の予定ですので、ご了承下さい。

◇ハイドロキノンのはたらきとは？

シミのもとになるメラニンはメラノサイトという細胞で作られますが、紫外線やホルモンなどの刺激により過剰につくられます。ハイドロキノンがメラノサイトがメラニンをつくるのを抑える効果があります。

ただし、シミと聞いていても実際には違うものであったり、適応がない場合もあります。また、個人の肌質や日焼けをすることなどでも大きく違ってきます。シミの治療を希望される方は、一度形成外科あるいは皮膚科を受診してください。

